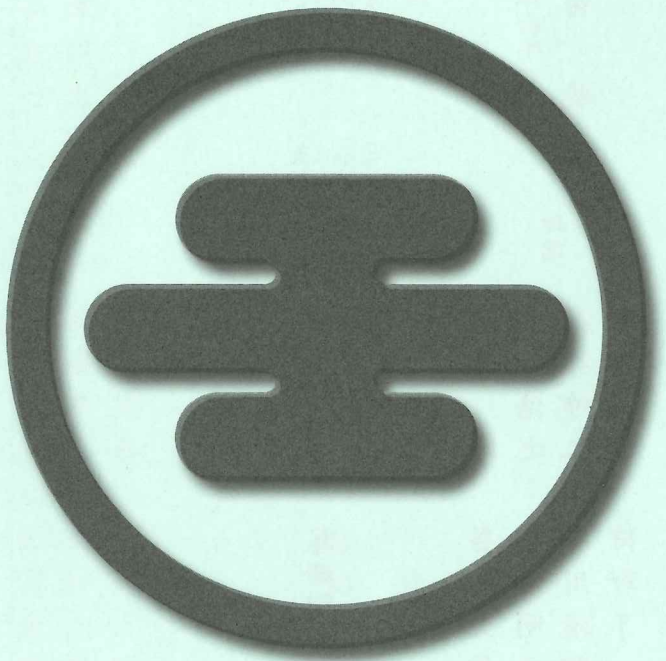


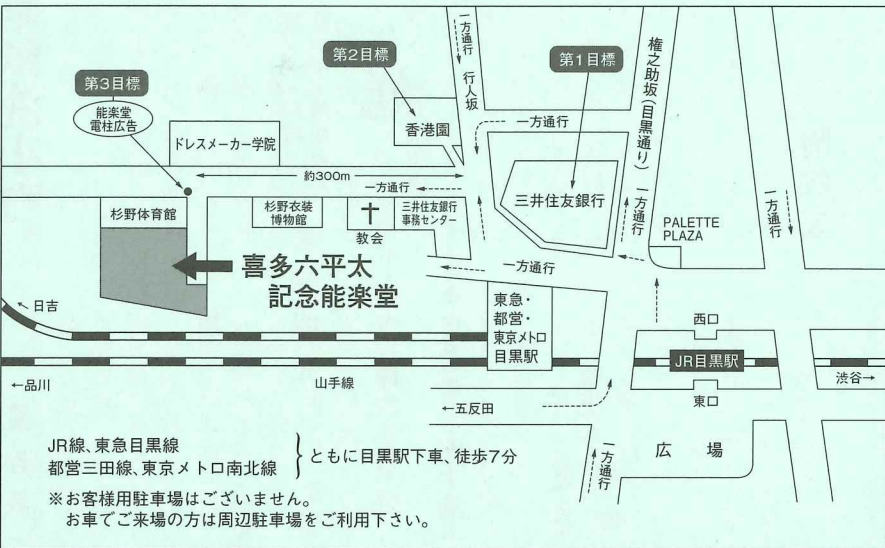
平成二十六年  
五月  
自主公演能

とき 平成二十六年五月二十五日(日)正午始  
 (整理券配布・十時三十分、  
 見所入場・十一時、解説・十一時十五分)  
 ところ 十四世喜多六平太記念能楽堂



喜多流職分会

【会場案内図】



主催 喜多流職分会

後援 公益財団法人 十四世六平太記念財団

〒141-0021 東京都品川区上大崎四一六一九

十四世喜多六平太記念能楽堂

電話 (〇三)三四九一八八一三  
 ファックス (〇三)三四九一八九九九

# 《チケットのご案内》

五月チケット発売開始日

平成二十六年三月二十三日(日) 午前十時より

## 年間優待券

- 十一枚綴り 五〇、〇〇〇円
- 五枚綴り 二五、〇〇〇円

優待券は各職分でも受付をしております。

## 前売券

- 一般券 六、〇〇〇円
- 学生券 二、五〇〇円
- 学生団体(二〇名以上) 二、〇〇〇円

指定席料 二、五〇〇円

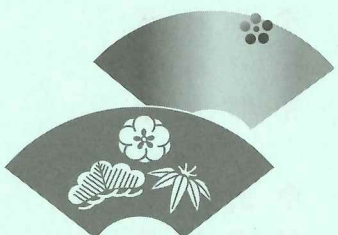
## 当日券

- 一般券 六、〇〇〇円
- 学生券 二、五〇〇円

## 《お取扱い》

窓口とお電話にて承っております。

(FAX及びメールでのお申し込みは  
お受けしておりません。)



十四世喜多六平太記念能楽堂事務局

《電話》〇三―三四九一―八八一三

(午前十時〜午後六時)

## 平成二十六年 六月自主公演能予告

平成二十六年六月二十二日(日) 正午始  
十四世喜多六平太記念能楽堂

「巴」 高林 伸二  
「杜 若」 内田 成信  
「鶉 飼」 友枝 真也

六月チケット発売開始日

平成二十六年五月二十五日(日)

午前十時より

### 【注意】

\*喜多流職分会の許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はできません。また演能の妨げや他のお客様の迷惑になる行為もご遠慮ください。時計のアラームや携帯電話の電源は必ずお切りください。なお、迷惑行為を発見した場合や係員の指示に従っていただけない時は退場していただく事もございますのでご了承ください。

\*2階ラウンジ以外のご飲食は固くお断り致します。

\*自主公演当日は午前10時30分より「整理券」(お一人様一枚)をお配りし、午前11時より整理券番号順に見所へ入場していただきます。

\*チケットは入場前に半券を切り離すと無効になります。

\*座席はお一人様一席です。入場の際手荷物等でお連れ様の座席を取り置く行為は固くお断り致します。

\*公演日によっては、満席になり次第入場をお断りすることもございますので、あしからずご了承ください。

\*公演中止の場合を除き、お申込後のチケットの払い戻し、変更、再発行はいたしません。

\*やむを得ない都合により出演者の変更になる場合がございます。

\*全館禁煙でございます。屋外喫煙所をご利用ください。

\*お客様用駐車場はございません。お車でこ来場の方は周辺駐車場をご利用ください。

\*貴重品の管理には十分ご注意ください。館内で起きました盗難・紛失につきましては一切責任を負いかねます。



# 五月自主公演番組

●平成二十六年五月二十五日(日) 正午始  
●整理券配布・十時三十分、見所入場・十一時  
解説・十一時十五分

能

後シテ・平忠度の霊  
前シテ・樵翁

佐々木多門

## 忠 度

ワキ・旅僧 大日方 寛

ワキツレ・從僧 野口能弘

ワキツレ・從僧 野口琢弘

アイ・須磨の浦人 野村太一郎

大鼓 柿原光博  
小鼓 住駒充彦

笛 藤田貴寛

後見

塩津哲生  
金子匡一

地謡

佐藤寛泰 笠井 陸  
友枝雄人 大村 定  
松井 彬 出雲康雅  
塩津圭介 中村邦生

狂言

## 隠 狸

シテ・太郎冠者 野村万蔵

アト・主 野村 萬

休憩 二十分

能

後シテ・紫式部の霊  
前シテ・里女

佐藤章雄

## 源氏供養

ワキ・安居院法印 館田善博

ワキツレ・從僧 森 常太郎

ワキツレ・從僧 梅村昌功

大鼓 大倉慶乃助  
小鼓 森 貴史

笛 藤田朝太郎

後見

高林白牛口二  
長田 驍

地謡

佐藤 陽 谷 大作  
粟谷浩之 粟谷明生  
高林伸二 香川靖嗣  
友枝真也 狩野了一

休憩 十分

仕舞

# 草紙洗小町

粟谷辰三

地謡

佐藤 陽  
粟谷 浩之  
大島 政允  
大島 輝久

能

後シテ・同前  
前シテ・鍾馗の靈

粟谷能夫

# 鍾馗

ワキ・旅人 森 常好

アイ・終南山麓の者 山下浩一郎

大鼓 亀井広忠  
小鼓 鶴澤洋太郎  
大鼓 小寺佐七  
笛 杉 信太郎

後見

粟谷幸雄  
内田安信

地謡

佐藤 陽 粟谷充雄  
塩津圭介 金子敬一郎  
大島輝久 長島 茂  
佐藤寛泰 内田成信

## 附祝言

(終了予定五時頃)

### 《忠度(ただのり)》

旅僧が、須磨の浦で薪を運ぶ老人に出会い、一夜の宿を求めぬ。老人はこの花の蔭ほどの宿は他にないと、旅僧に平忠度にゆかりのある桜の木のもとで用いを頼む。「行き暮れて この下蔭を宿とせば 花や今宵の主ならまし」と詠んだ平忠度がここに埋められていることも語り、そして実は自分がその忠度であることをほのめかして姿を消す。(中人) 旅僧が花の蔭に仮寝をしていると、夜になり風が烈しくなると、平忠度の霊が甲冑姿で現れて、自分の歌が『千歳集』に採用された際に勅勘である為に、「読み人知らず」とされたことを嘆き、俊成の御内の者のよしみで、都に帰ったらこれを撰者の藤原俊成の子、定家に伝えて作者名を明かして欲しいと訴える。出陣の際に藤原俊成の家を訪ね歌を託したこと、一の谷の合戦で岡部六弥太と戦って討死したこと、その際に籠につけた短冊で六弥太に姓名を知られたことを物語り、跡の用いを頼んで消え失せた。

### 《隠狸(かくしだぬき)》

太郎冠者には狸を巧みにとるといふ噂

がある。主人はその真偽を明らかにするために太郎冠者に尋ねるが、太郎冠者は知らないと答える。何とかしつぽを捕まえた主人は、すでにふるまいの御客を招いているので狸を市場で買ってくるようにと命ずる。実は太郎冠者、昨日も狩りで狸をとったので市場で売ろうと考えていたのだ。主人が先回りをして市場にいるので太郎冠者は慌てて狸を隠す。それを見た主人は、酒に酔わせて狸取りを白状させようとする。やがて主人の計略通り酔わされた太郎冠者は隠していた狸を主人に取られているのも知らずに舞を舞い、最後には叱られてしまうのであった。

### 《源氏供養(げんじくよう)》

安居院の法印が石山寺へ参詣しようとする向かう途中で、里の女に呼止められる。自分はこの石山寺で『源氏物語』を書いたが主人公の光源氏の供養をしてなく成仏が出来ないでいるので、光源氏と自分の供養を求めぬ。そして里女が紫式部の霊と分かると法印は供養を引き受ける。(中人) 法印が石山寺で光源氏と紫式部の霊の供養をしていると、紫式部の霊が紫の薄衣を着て現れ、『源

氏物語』の巻の題を織り込みつつ、世の無情と弥陀の導きを願った舞を舞う。そして光源氏の供養と併せて自らも成仏が出来ると言って悦ぶ。「源氏物語」は石山の観世音が紫式部となって仮にこの世に現れ、この世が夢であることこの世に現れ、この世が夢であることこの物語によって人々に知らせた方便であるといつて消え失せる。法印は、紫式部は観世音が仮にこの世に現れたもので、『源氏物語』もこの世が夢であることを人々に教える方便だと知る。

### 《鍾馗(しょうき)》

旅人は、天子に奏上するために唐の終南山麓から都に向かう途中で、怪しい男に呼び止められた。怪しい男は鍾馗だと名乗り、自分は進士の試験に落第し自殺をしたが執着の心を改めて後世のために良い事をすると言ひ、悪鬼を亡ぼして国土を守護するので奏上してほしいと旅人にいう。そして諸行無常の悲しみを語り姿を消した。(中人) 旅人が法華経を誦誦して鍾馗の霊をいうと、鍾馗の霊が宝剣を持って現れ、悪鬼を追い払い国土が安らかに治まることを、目の当たりに自分の威力を示して消え去るのであった。